

天文民俗調査報告(2020年)

北尾 浩一*

概要

2019年に続いて、南西諸島の調査を行なった。星の出を漁の目標にしている事例を栗国島、与論島において記録した。オリオン座三つ星についてはフガニミチブシ、宵の明星についてはユダチ等の星名を記録することができた。また、シニグや綱引きのなかで星が唄われた。波照間においては、星を見て家を建てたという伝承が伝えられていた。天から降ってきた石等を含め南西諸島に伝わる多様で豊かな星名伝承について報告する。

1. はじめに

1978年、新潟県佐渡郡相川町姫津(現 佐渡市)より星名伝承の調査をはじめてから43年目になった。調査を実施した地域は、「南西諸島」である。

2. 調査の概要

2-1. 調査方法

漁業、農業等の昔の仕事に従事した経験を持つ高齢者、経験がなくても年上から伝え聞いていた高齢者(昭和30年、40年代生まれを含む)を中心にインタビュー調査を行なった。最も高齢の伝承者は大正12年生まれ、最も若い伝承者は昭和42年生まれであった。

2-2. 調査地

2020年は、次の29箇所調査を実施した。

- ・1月…沖縄県八重山郡与那国町祖納、久部良
- ・3月…沖縄県八重山郡竹富町波照間、黒島
- ・6月…鹿児島県大島郡与論町茶花、麦屋東区、那間、古里、城
- ・7月…沖縄県島尻郡栗国村浜、アギ、国頭郡国頭村安田、安波、宜野座村漢那、うるま市石川、勝連(浜比嘉島)浜、豊見城市与根
- ・10月…沖縄県島尻郡与那原町、八重瀬町港川、南城市玉城奥武、国頭郡本部町具志堅、備瀬、国頭村辺戸、与那、奥
- ・11月…沖縄県糸満市糸満、島尻郡渡嘉敷村渡嘉敷、阿波連、国頭郡今帰仁村湧川

3. 各地域の星名伝承

3-1. 鹿児島県大島郡与論町

(1) 星名

プレアデス星団…ブリブシ

オリオン座三つ星…ミチブシ、フガニミチブシ

北斗七星…ナナチブシ、ニブ(水をくむ柄杓)

北極星…ニヌファブシ

(2) 伝承

「ティンヌーブリブシーヤー ミナガウイドウティユルー ヤレミナガウイドウティユルー フガニミチブシヤー ワーウイドウーヨーティユル ヤレワーウイドウーヨーティユル」という俚謡が伝えられていた。(話者生年:昭和11年、立長出身) また、ブリブシが頭の上に来たから、もうそろそろお別れの時間だな、と別れの時を知って唄った。(話者生年:昭和7年、城出身)

フガニミチブシは中天に即ち我れの上に輝くが、ブリブシは与論島では天頂から約3度離れているだけでほとんど真上なので皆を照らすのだろうか。

3-2. 沖縄県島尻郡栗国村

(1) 星名

プレアデス星団…ブリブシ、ブリムン(浜、アギ)

オリオン座三つ星…タテイシ、タテイチ、タテイチフシ、クガニミチブシ(浜)、タテイチ、タテーチ、クガニミチブシ(アギ)

北斗七星…ニーブブシ(柄杓、クバの葉で作る。ナナチブシという人も)(浜)、ニーブブシ(アギ)

北極星…ニヌファノフシ(浜)

宵の明星…ユーバンマブヤー(ユーバン:タご飯、マブヤー:待っている)(浜)、ユーバンマンジャ

*星の伝承研究室
starlore_kitao@yahoo.co.jp *

ー(ごはんあるのをほしがる)(アギ)

明けの明星…ユーアカ、ヨーカ(浜)

さそり座…イユークッシャー(魚釣り)(浜)、イユチャー
ブシ(釣り針の形に似ている。イユ:魚 チャ
ー:釣る。ティンガーラ(天の川)から離れな
い)(アギ)

流星… ナガリブシ(こどもが使う言葉)、フシヌヤウ
チリー(おとなが使う言葉、家、移る)(アギ)

彗星…イルガンブシ(入髪星)、ホーチブシ(箒星)。
(ホーチブシはね、ばらついているわけ、下でね。イル
ガンブシはイルガンって言って、この根っこ膨らんだよう
にして)(イルガンというのは、髪の薄い人に余計な髪
を使う)(友利氏撮影のネオワイズ彗星の写真を反対
にして、即ち頭(核)が右上で、左下に向かって尾が流
れるように見せたところイルガンブシと答えた。明け方
の彗星を見たのを記憶していたのだろう)(アギ)

日食…シャーカノユ(ユ:夜、星と太陽が結婚)(アギ)

月食…シャーカ(星と月が結婚する)(アギ)

(2) 伝承

・ウマノファブシ、マキタウガレバ、マグリブシ…マキタは、
同じ高さ。ウマノファブシは2つの星で平行に見えたら
無風状態になる。明るい星ふたつ。(ケンタウルス α
 β ?) (話者生年:昭和8年、浜出身)

・ブリムン…ブリムンは8人の兄弟、頭のぼけている。フ
ラーの女、8人の兄弟。仕事もしない。タテイチブシ、3
つくらい並んでいる。ブリムンのそばにタテイチでる。
(話者生年:大正15年生まれ、浜出身)

・ブリってかたまっている。ムンとはもの。ブリムン。年寄
りが「ブリムンモイリカタンチョンドー」と言うのを聞いた。
(ブリムンが西に傾いたからもう時間が遅い。早く寝なさい)
(話者生年:昭和16年、アギ出身)

・とんざり(祝詞)…「んむがなさちゆくらしみそーらー、
みとうぐたあ、ゆとうぐたあ、ティンガーラうっちゃんねえち
ゆくらしみそるかふーとうで一びる」イモ等が3つ、4つ
置いたのがいっぱい天の川のように、と大晦日に翌年
の豊作を願う。(話者生年:昭和13年、アギ出身)

・星と雨…フシヌ ミーウチ スグトゥ アミフユンド(星が
まばたきするからアミ(雨)がふるよ)(話者生年:昭和
13年、アギ出身)

3-3. 沖縄県島尻郡渡嘉敷村

(1) 星名

プレアデス星団…ブリブシ、ブリブシ

オリオン座三つ星…ミチブシ、ミーチブシ

北斗七星…ナナチブシ

北極星…ニヌファ、ニヌファブシ、ニヌファブシ

宵の明星…ユーバンマンジャー(夕ご飯欲しがってる)

明けの明星…ユーアケブシ

(2) 伝承

明治23年生まれの母親から、実際の星空を見なが
ら南斗六星をニブブシと聞いた。北斗七星は、ナナチ
ブシ。(北斗七星をニブブシとは言わない)

(話者生年:昭和13年、渡嘉敷村渡嘉敷出身)

3-4. 沖縄県国頭郡国頭村辺戸

明治生まれの田んぼを耕していた U 氏より伝え聞いて
いた星窪についての話である。

・窪んでいたところは、草が生えていなかった。のちに
田んぼになった。

・昔、ここ田んぼだったのですよ。この隕石落ちたところ
が。そして、隕石落ちて窪地ができたものだから。戦後、
田んぼができて。

・年取ったおじいさんから何回も聞いた。水もあつたから、
サトウキビしぼったり。星窪に水わくわけ。隕石おち
た窪に水たまって、上に川あつて。

(話者生年:昭和23年、国頭村出身)

3-5. 沖縄県国頭郡国頭村与那



福里美奈子氏より、
与那に空から降ってきた
石の伝承があると聞いて
訪問した。(写真左)

「天から落ちてきた石、

空から降ってきた石が元は、山にのぼったところにあつた」
(話者生年:昭和12年、与那出身)

3-6. 沖縄県国頭郡国頭村安田

(1) 星名

プレアデス星団…ブリブシ 北極星…ニノハフシ

明けの明星…ユアキブシ

(2) 伝承

ユアキブシって、あれ後ろにしてよ… イカ釣るとき。
(漁場から西に向かって帰るから、東に輝くユアキブシ)
が後ろ側になる)(話者生年:昭和9年、安田出身)

3-7. 沖縄県国頭郡国頭村安波

(1) 星名

明けの明星…ユーカ

(2) 伝承

ブリブシについては、星の特徴の記憶をたどることが
できなかった。(話者生年:昭和19年、安波出身)

3-8. 沖縄県国頭郡本部町備瀬

(1) 星名

プレアデス星団…ブリブシ(固まって10くらい)。

(2) 伝承

・ソウキブシ…5個か6個くら
い。(一方が空いている。かん
むり座? 竹であんだバケツ
ーキに見立てた)

・天から降ってきた石…神人

(かみんちゅう)が腰掛けて休む石。神人だから、天か



ら降ってきた石。(話者生年:大正12年、備瀬出身)

3-9. 沖縄県国頭郡本部町具志堅

シニグで、「ティンヌブリーブーシーヤーヨー シナガ
ウィードーテユール サー クーガーニー ミチブシヤー
ヨー ユイサ ワーウイドーティー イユルー スーライ
シタリス クーガーニーミチーブシーヤーヨー ユイサ
ワーウイドーティー イユルー スーライ」と唄われている。
喜界島、与論島等に伝えられている黄金三つ星の俚
謡が異なったメロディーで、シニグという祈りの場で唄
われていた。(話者生年:昭和8年、具志堅出身)

3-10. 沖縄県国頭郡今帰仁村湧川

元はマリー連山と同じ高
さであった所が星がぶつか
って窪んだのが星窪、大き
な石が落ちてきてできたの
が佐我屋(さがや)ミーとい
う島小(しまぐわー)(写真右上)と伝えられていた。(今
帰仁村歴史文化センター 2012)



3-11. 沖縄県うるま市石川漁港

(1) 星名

プレアデス星団…ブリブシ 北極星…ニーヌファ
北斗七星…ナナチブシ 宵の明星…ユーバンマンジャ
明けの明星…ユーアカブシ 流星…ナガリブシ

(2) 伝承

ユーバンマンジャ、明るい。夕飯を食べようとしてい
る。人のもの(ごはん)をほしがっているという意味。ナ
ガリブシ、ヤーウチィ(おうちをうつす)と言う人もい
る。(話者生年:昭和7年、糸満市真栄里出身)

3-12. 沖縄県豊見城市与根

流星のことをヤーウチィと伝えていた。フシをつけ
ずにヤーウチィ(引越し)だけで流星。ニヌファブシ向
かって昔の漁師。チービシで亀が卵を産む。三日月く
らいの頃。(満月はだめ) チービシの砂浜に卵を産む。
(話者生年:昭和12年、与根出身)

3-13. 沖縄県島尻郡与那原町

綱引きのなかで星が唄われている。

「ティンヌブリーブシヤーヨウ ユーミーパ ユマリウサ
ーヨ サーサー ハイマタサタ ハイ ウヤヌユシグトウヤ
ヨー ユミヤーナーラヌヨ サーサー ハイマタサタ ハ
イ」「ユルハラース フニーヤーヨー ニヌファブシ ミア
ーテヨー ワンナーチュル ウヤヤヨー ワンドミーアー
テヨ」(話者生年:昭和27年、与那原町出身)

3-14. 沖縄県八重山郡竹富町波照間

・星を見て家を建てたという伝承

「ゆつあしきてそー やーなうーばし やーばちくーり
あんちよー ウリヤミョーナチャ」(四辺形星を元にして
家を造ったそうな)と唄われている。(玉城 2000) ユ
ツアスブスイを見て家を建てて、はじめて人間の女の子

が生まれた場所が現在も伝えられている。ユツアスブ
スイは、秋の四辺形の可能性がある。(北尾 2020)

3-15. 沖縄本島八重山郡与那国町

(1) 星名

プレアデス星団…ムリブチ、ブリブシ、ブリフシ
オリオン座三つ星…ミチブチ
北極星…ニーヌファフチ、ニヌハフチ、ニヌハフチ
北斗七星…ニチナナチ、ニチナナチブチ
宵の明星…シカマフチ、シカマブチ、シカマフチ、
ドゥイフフッチ、ユダチ

明けの明星…シカマブチ、ドゥアギルフチ

流星…ナガリフチ、ナガレフチ

南十字星…シマヌハフチ、シマヌファブシ

(2) 伝承

・ティンダバナに出る星

「シカマフチ、シカマブシ、仕事の星。仕事のことを方
言でシカマ。ティンダバナの上で星がピカピカしている。
あれがシカマブシ。偉い人が亡くなるというのは、たま
に聞きますけどね」

シカマフチは、宵の明星のこと。宵の明星は金星とは
限らず、金星のように明るい星、例えば木星のこともあ
る。(話者生年:昭和8年、祖納出身)

・ユダチ(宵の明星)とシカマブチ(明けの明星)

シカマブチは明けの明星を意味し、宵の明星はユダ
チと呼ぶケースである。

「宵の明星、ユダチ。あの星あがったら、見えたら日が
暮れるよー。ユー(夜)を知らせる星。ユダチ、夜(ユ)が
立つすなわち夜になる。ユダチ、明るい。ユダチ、明る
い星。シカマフチみたいな」

ユダチには、「帰る準備をしなさい」という意味と「ま
だ仕事を続けなさい」というふたつの意味があった。

「シカマブチ、あがっている。早く仕事行きなさい、と朝
は言われた。シカマブチ(仕事星が)、アカノドゥ(あが
ったよ)、タイグ(はやく)、シカマンキ(仕事いき)、と」
(話者生年:昭和22年、祖納出身)

・ドゥイフフッチ(宵の明星)

ドゥイ:夕ご飯、フ:食べる、フッチ:星。夕方ご飯食
べるときに、電気もないとき、星の頼りで早く食べないと
落ちてしまうよ。(話者生年:昭和14年、久部良出身)

・ドゥアギルフチ(明けの明星)とシカマブチ(宵の明星)

ドゥアギルフチ、ドゥ(夜)アギル(あける)フチ(星)。
夜明け星。シカマブチ、この星沈むまで仕事(シカマ)
やらんとあかんと。昔のじっちゃん、ばっちゃんに教えら
れた。宵の明星。(話者生年:昭和15年、比川出身)

・シマノファブシ(南十字)

明治26年生まれ(の祖父)とシマノファブシを見た。

「ほとんどが上の3つしか見えませんね」

「祖納からは宇良部山に隠れて見えません。東崎あ

たりにいかないと見えないですよ」

(話者生年:昭和22年、祖納出身)

4. 特筆すべき星名伝承

4-1. 星の出等を漁の目標とした事例

与論島と栗国島にて、星の出等を漁の目標とした伝承を記録した。

事例1 与論島

ブリブシ(プレアデス星団)、ミチブシ(オリオン座三つ星)の出をイカやカジキ等の漁の目標にしていた。釣れるのはユネーブシ(宵の明星)が見えてからであった。「ユネーブシはまだありますよ。まだ、あります。暗くなりはじめ、ちゅうことはイカの、あの星が1つか2つぐらい見えはじめてから、それから食うわけですよ。もうだんだん暗くなって、だんだん星がたくさん見えるけれど、まあ星が光って見えんうちは食わないです。昼のうち」

一番よく釣れるのはミチブシの出であった。

「ミチブシの方はまた、こうこう3つあってから、ここに1つくらい小さなのがありますよ。それが、このミチブシははっきりしますから。これ光って見えますから。それが出る時が一番、あの一魚が良く釣れるわ」

(話者生年:昭和9年、与論町麦屋東区出身)

事例2 栗国島

ブリブシ(プレアデス星団)の出、イユークッシャー(さそり座のS字形)の入り漁の目標とした。

「ブリブシ、あれが上がるとマグロ、カジキ、イカつれる。大物釣れる。イカは大物でないけど。ブリブシがあがいんど、と言った」

「イユークッシャー、落ちる前に魚が寄る。マグロ、サメ、カジキ、大物とれる。小さいけどトビーチャ(飛びイカ)。夏の夜中、イユークッシャー、落ちていく」

(話者生年:昭和8年、栗国村浜出身)

与論島のケースは、話者の父親が糸満漁師から学んだものであったが、栗国島は不明であった。糸満漁師の行動範囲である五島列島、壱岐、対馬において星の出に漁があるという伝承が分布しているが、本調査だけでは糸満漁師を介して伝播があったかどうかは不明である。今後の課題としたい。

4-2. 南西諸島のオリオン座の星名

オリオン座の星名は、次の2つに分類できる。

・オリオン座三つ星(δ ϵ ζ)…北は屋久島から南は与那国島、波照間島

・オリオン座三つ星と小三つ星と η 星…北は種子島から南は徳之島

① オリオン座三つ星の星名形成

・数3にもとづく星名…北は屋久島(ミツボシ、ミツボシホイドン)から南は与那国島(ミチブチ)

・数3だけでなく黄金を加えた星名…北は喜界島(クカネミツフシ)から南は栗国島(クガニミチブシ、クガニミ

チブシ)、沖縄本島糸満市(クガニミチブシ)(金城1986)

・縦に3つ立つようにのぼることにもどく星名…北は栗国島(タテーチイ等)から南は波照間島(タタスイブスイ)

・3つの星を牛、人、馬に見立てた星名…宮古島市保良(ウシウマサダチイ)、石垣市白保(ウシウマサフケ)

② オリオン座三つ星と小三つ星と η 星の星名形成

・油を量る榊に見立てた星名…喜界島(アブラゴ)

・形状としての榊にもとづく星名…マスカタブシ(奄美大島)、マスカタブシ(加計呂麻島)等

・大島紬の柄名(小さな榊)にもとづく星名…ツガフシ(奄美大島)

5. おわりに

2020年においても予想以上に記録できた。伝承者のひとりひとり、調査に多大なご協力をいただいた田端研二氏、友利健氏、河合準子氏、山内銘宮子氏、与那原の綱引きに星が唄われている等ご教示いただいた福里美奈子氏、与那国島の調査に同行いただき数々のアドバイスをいただいた宮地竹史氏、アヤミハビル館(当時)の田原伊明氏、与那国方言辞典編纂室上地艶子氏に紙面を借りてお礼を申し上げます。

また、本報告をまとめるにあたって、録音の方言が聞き取れず悪戦苦闘していた箇所について友利氏、福里氏のご教示を得ることができた。

2020年は入退院を繰り返しながらの調査となった。アマチュア天文家の会合でお会いしてから長年の交流があった通事安夫氏から黒島、波照間島の調査を提案いただき、退院後すぐ八重山に向かった。波照間島については、通事安夫氏、島村修氏、新城勝氏、勝連松一氏の多大なご協力をいただいた。

与論島の星名伝承の調査については、和歌山大学観光学部教授尾久土正己先生がチャンスを与えてくださった。与論町竹盛窪氏、麓才良氏、調査に同行いただき調査記録の整理、まとめ、録音の聞き取り等の膨大な作業を行なっていただいた和歌山大学観光学部4回生(当時)澤田幸輝氏に紙面を借りてお礼申し上げます。

(3月の波照間島、7月の栗国島、沖縄本島の調査は、JSPS 科研費 JP19H00544の助成を受けたものです。)

参考文献

金城誠:1986,星の方言名-糸満市字糸満,やちむん第9号,やちむん会

玉城功一:2000,ひーすくり・じらば,竹富町古謡集 第3集,竹富町教育委員会

今帰仁村歴史文化センター:2012,今帰仁村の民話・伝承-資料編(下)

北尾浩一:2020,天文民俗学試論(182)(183),天界第1143,1147号,東亜天文学会